

2021/5/9

(うとQ世話し「も、」の話)

「海図なき航海」

「グランドデザインなき構築」

「いつ迄という期間の明示なき忍耐」

それが2021年5月現在の今。その姿。

全ては「未知との遭遇」から始まった。

大変な飲食業者を助けようと「敢えて外食をしていた」人たちも段々元気がなくなってきた。

その飲食業者は、終わりの見えない中、有効な手立てを見つけられない「不完全燃焼の鬱積」の中で、気がつけば「潰れてしまっている」事態。

そうしていつの間にか「戦う相手」を間違えた「犯人捜し」と「非難合戦」に明け暮れる労力の無駄遣いの「蔓延」

平たく言えば「足の引っ張り合い」か「自分の尻尾を追掛けて食べ始める蛇、状態」

或いは「常態」

しかし、考えて見れば、古(いにしえ)の人は常に

「海図なき航海」をし「グランドデザイン無き構築」の中で、遡ってグランドデザインを手探しし、いつ終わるともしれない「期間の明示なき忍耐」にずっと晒されて生き抜き、生き残ってきた訳です。悪条件の中、難解な問題の「解」を見つけてきた訳です。

そうした古の人から見れば、現代の我々は「可成り底上げされた好条件」からの「悪化」や「沈下」を騒いでいるだけなのかもしれません。

それこそ今「常態」は何なのか？を見つめ直す必要があるような気がします。

「常に未知の脅威に晒されている」ことが「常態」だった古の人々。

「常に安心安全快適である」ことが「常態(当たり前)」になってしまった、特に先進国の我々。

今一度、発展途上国や古の人の立場に立ってみる必要があるような気が致します。

「解」はそういう中にしかない様な気がします。

自分も大切だが人「も、」大切。

今の我々は「自分だけ」大切になりすぎて、何も見えなくなっているような気がしないでもありません。

苦しい中で商売をしていて痛切に思うのは「新しい解」を得るためには、何が役立つか、現時点では皆目分らないので、成る丈大きく時空に投網を広げ、却って「急がば回れ」で、自分だけの利害や視点を一旦離れ(或いは捨て)

「自分が大切なのは当然ですが、人「も」大切にしないといけない」

そういうことが「新しい解を得る為」には必要なのではないか？という気が「強く」致しております

(注)

上記の「人」というのは、今たまたま「隣にいる人」「図らずもハンディキャップを負っている人（苦しく辛い立場の人）」「立場を異にする人」や「古の先達」を指しております。